

エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

1 経過報告

(1) H29 年度エゾシカ・ヒグマ WG の開催経過

●第 1 回会議

平成 30 年 5 月 24 日 (木) 釧路市 (ヒグマ関係)

平成 30 年 5 月 25 日 (金) 釧路市 (エゾシカ関係)

●植生指標検討部会

平成 30 年 11 月 1 日 (木) 札幌市

●第 2 回会議

平成 30 年 11 月 19 日 (月) 釧路市 (ヒグマ関係)

平成 30 年 11 月 20 日 (火) 釧路市 (エゾシカ関係)

○主な議題

<ヒグマ関係>

- ・2017 (平成 29) 年度アクションプラン実施結果について
- ・2018 (平成 30) 年度アクションプランについて
- ・モニタリング及び調査・研究について
- ・管理計画のモニタリング及び調査・研究について (速報)
- ・2018 (平成 30) 年度アクションプラン実施状況 (速報) 及び 2019 (平成 31) 年度アクションプラン等について

<エゾシカ関係>

- ・2017 (H29) シカ年度実行計画実施結果について
- ・2018 (H30) シカ年度実行計画案について
- ・2018 (H30) シカ年度冬期事業案について
- ・植生モニタリング及び植生指標について

<植生指標検討部会>

- ・今年度の植生調査について
- ・長期モニタリング項目の見直しについて
- ・植生指標の設定・評価について
- ・今後の植生指標の検討の進め方について

<共通>

- ・長期モニタリング計画の見直しについて

○主な内容

<ヒグマ関係>

- ・ヒグマ個体群の動向を継続的に把握していくためのトレンド調査（糞カウント及び自動撮影カメラ調査）について、必要な労力を賄う財源を確保しつつ、少なくとも数年は独立した手法により継続して傾向を確認し、その上で比較することが重要との意見があった。
- ・岩尾別川河口部における混乱の発生に関して、町道におけるアクセスコントロール（シャトルバス利用）のための社会実験の素案が示された。警察等含め関係者で協議して実現を目指すべきとされた。
- ・遺産地域外の河川で釣り客が集中して混乱が生じている上にヒグマも頻繁に出没している（事故が発生する可能性がある）ことについて報告があり、漁業調整規則等も関連するため北海道庁内で水産部局への情報共有に努めるよう指摘があった。

<エゾシカ関係>

- ・H29 シカ年度の航空カウントによる発見密度は、知床岬地区 12.5 頭/km²（目標 5～10 頭/km²以下→未達成）、ルサー相泊地区 1.9 頭/km²（目標 5 頭/km²以下→達成）、幌別－岩尾別地区 1.9 頭/km²（目標 5 頭/km²以下→達成）だった。針葉樹が多い植生の地域では見落とし率が問題となることが指摘された。
- ・世界遺産隣接地域における管理方針の一つであるコミュニティベースの個体数調整（資源の持続的利用）について、地域住民や関係者それぞれの立場を考慮しつつ、第4期計画に向けて、引き続き検討することとなった。
- ・植生モニタリング調査では、広域森林調査において、知床岬地区の林床のササの被度と嗜好種の回復傾向がわずかにみられ、また海岸草原の調査では柵外で一部の草本の回復傾向がみられるなど、エゾシカの個体数調整の効果が示唆された。一方で、森林における下枝や稚樹などは回復傾向がみられず、木本類の回復には時間がかかると考えられた。
- ・低密度状態となった後の捕獲の戦術と戦略について中長期的な展望を考える必要がある、との意見があった。

<植生指標検討部会>

- ・ササの回復により林床植生が被圧されて種数が減少する可能性があることを考慮して評価をすべき、との意見があった。
- ・モニタリング項目 10（エゾシカによる影響の把握に資する広域植生調査）では、評価項目Ⅷ（気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること。）を残しておくべき、モニタリング項目 11（シレットコスミレの定期的な生育・分

布状況調査)に評価項目Ⅷを加えるべき、との意見があった。

＜共通（長期モニタリング計画の見直しについて）＞

- ・ヒグマについては、評価項目Ⅲ（遺産登録時の生物多様性が維持されていること）への対応として新規に作成するモニタリング項目において、評価項目Ⅱ（海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること）を追加すべき、との意見があった。
- ・エゾシカについては、評価項目Ⅶ（レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。）の評価はエコツーリズムWGと合同で検討するなど、植生関連のデータと利用関連のデータを突き合わせて評価する枠組みを明確にしておくべき、との意見があった。
- ・長期モニタリング項目の評価は、毎年ではなく5年ごと等で問題ない項目もあるとされた（ただし毎年の評価は管理計画（アクションプラン）のモニタリングの中で実施）。
- ・知床世界自然遺産地域管理計画を改定することになった場合、同計画への最終的なフィードバックの仕方を考えながら検討を進めるべき、との意見があった。
- ・科学委員会が行うべき評価（8つの評価項目）と各WG等が行う評価について整理が必要ではないか、との意見があった。

（2）H30 シカ年度エゾシカ個体数調整事業計画について

A. 遺産地域内（環境省釧路自然環境事務所）

- ・幌別－岩尾別地区：岩尾別台地における誘引狙撃、しれとこ 100 平方メートル運動地内における流し猟式シャープシューティング等
- ・ルサー相泊地区：道道知床公園羅白線における流し猟式シャープシューティング
- ・知床岬：流氷期（ヘリ）、海明け後早期（船）の捕獲（くくりわな、待機狙撃、忍び猟等）
- ・個体数調整を実施している3地区及びルシャ地区についてエゾシカの増減傾向を把握するための航空機によるカウント調査を実施する。

B. 隣接地域内（林野庁北海道森林管理局）

- ・囲いわな（ウトロ東、弁財崎、オシンコシン崎、春苧古丹）及び箱わな（春苧古丹、金山川）による捕獲を基本とし、シカ低密度化を図る。
- ・可猟区内において銃による捕獲を実施。
- ・囲いわなで誘引できない個体については箱わな及びくくりわなを設置して捕獲効果の向上に努める。

2 今後の予定

(1) H31 年度エゾシカ・ヒグマ WG の開催予定

- ・年2回程度の WG を開催する。現地を見た上で議論を深めるため、第1回 WG の開催地は羅臼とする方向で検討する。
- ・平成31年度については植生指標検討部会は開催しない。第4期エゾシカ管理計画の検討時に集中的な議論を行う予定。

(2) H31 実行計画

- ・H31 シカ年度実行計画を、今シカ年度事業結果等を踏まえて6月頃までに策定。
- ・3月に開催するヒグマ対策連絡会議で次年度のヒグマ対策に係るアクションプランを策定。
- ・エゾシカ・ヒグマ WG において科学的な評価及び助言を得ながら上記の計画に基づく取組を進める。